

教育における「平等」を考える

田邊 良祐 (筑波大学大学院／教育制度学)

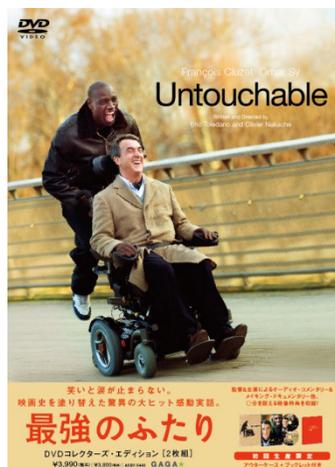
最強のふたり

(原題：Intouchables)

- ◆ 種別：DVD (映画)
- ◆ 監督：エリック・トレダノ
- ◆ 製作年：2011年
- ◆ 製作国：フランス
- ◆ 発売元：ギャガ ◆ 販売元：アミューズソフト
- ◆ 税込価格：3,990円
- ◆ 時間：本編 113分
- ◆ 音声：フランス語／日本語／

オーディオコメンタリー／音声ガイド

- ◆ 字幕：日本語／コメンタリー用字幕



©2011 SPLENDIDO/GAUMONT/TF1 FILMS PRODUCTION/TEN FILMS/CHAOCORP

あらすじ

この映画は、実話を元にした物語である。事故によって首から下の感覚がなく体を全く動かすことができなくなった大富豪のフィリップと、黒人青年のドリスの友情が描かれる。

フィリップを介護する人物を選ぶための面接会場に、「不採用にしろ」と現れたのはドリスだった。就職活動を行った証明があれば、失業保険がもらえるからだ。しかし、フィリップは周りの反対を押し切って、介護の経験もないドリスを採用する。一人の人間として扱ってくれるドリスを、フィリップは気に入ったのである。そして二人は、次第に友情を深めていく。

シーン再現

<車いすのまま乗るワゴン車で出かけようとして>

ドリス：イヤだね。馬みたいに荷台に載せると？ ……こっち (マセラティ) は？

フィリップ：(スポーツカーだから車いすに) 対応してない。実用的でないということだ。

ドリス：実用的？

(シーンは変わりマセラティに乗った二人。エンジンをふかしながら興奮するドリス)

ドリス：すげえ！！ (フィリップもうれしそうな表情でうなずいている)

Chapter	
1. オープニング	7'42
2. 出会ったふたり	19'33
3. まさかの採用	22'15
4. “実験”	30'51
5. 芽生え始めた友情	37'26
6. 文通	39'16
7. ドリスの優しさ	44'35
8. 最愛の妻	50'46
9. はじめての会話	60'04
10. 深まる友情	64'07
11. サプライズ誕生日	73'03
12. 待ち合わせ	76'42
13. 傷心のふたり	81'40
14. 大空へ	84'42
15. ドリスの心配事	89'27
16. 突然の別れ	94'43
17. 孤独なフィリップ	105'13
18. エンディング	112'02



改造車いすで疾走するふたり

大富豪と宝石強盗の前科者。高級スーツとスウェット。そして、ハンディキャップの有無。こんな「ふたり」が、なぜ友情を深めていくことができたのかを考えると、お互いを一人の人間として「平等」に接しているということが思い浮かぶ。この映画では、チョコをくれというフィリップに対してドリスが「これは健常者専用だ」と言ったり、着信のある電話を受け取れと言わんばかりに差し

出したり、フィリップの持つハンディキャップに対して、かなりブラックに描かれている場面がある。そういった表現に嫌悪感を抱く人もいるかもしれないが、ふたりの間には偽善や同情といったものは存在せず、お互い一人の人間として平等に接しているのである。それは、こんなシーンからも読み取れる。ドリスには宝石強盗をはたらかき服役した過去があるとフィリップの親戚が忠告をする。しかし、フィリップは毅然と答える。「彼は私に同情していない。そこがいい。彼の素性或過去など、今の私にはどうでもいい」。人と人であるから、お互いに配慮は必要である。しかし、身につけている物、見た目、育った環境や言葉使いなどの表面的なことに囚われず、同情や偽善といったフィルターを通さずにお互いを見ているため、ふたりはより深く、強い関係を作ることができたのだろう。

日本国憲法は、第26条の1項において教育を受ける権利について規定している。一人ひとりに「ひとしく」教育を行おうとしたとき、誰に対しても同じ内容、方法、時間で教育を行うことが、果たして平等なのだろうか。そのような教育は平等ではなく、画一的なのではないか。画一的な教育であれば、人間が教育を行う必要はなく、ロボットやコンピュータがすれば良い。

学校教育において、直接的に子どもたちの教育に関わるのは教師である。生まれ、育ち、家庭環境や性格も一人ひとり異なる子どもたちに対して、教師が「ひとしく」教育を行うためには、教育を創造するための自由と、その自由を行使できるだけの資質及び能力が必要であろう。そして、一人ひとりの子どもを同情や偽善の目差しで見るとはならず、平等に扱い、見て、理解することが重要ではないだろうか。誰かと人間関係を築くとき、うわさや先入観でその人の本質を見失うことがある。しかし、教師がすべての子どもに「ひとしく」教育を行おうとしたとき、その子がどういう子どもなのかという本質を見なければいけないのではないか。それは、ロボットやコンピュータにはできない。だから、教育は人間が行わなければならないのである。

Information

【映像配信サービス】「ドキュメンタリー：最強のふたり」監督：マチュー・ヴァドピエ、原題：Real Untouchable、制作年：2011年、制作国：フランス、本編50分

画一を求める教育なら機械がやればいい！
教育は人なり！